

問1 出土した人骨の統計において、縄文時代に比べて弥生時代は武器などによる傷を受けた割合が高いことが分かっています。こうした背景から、当時の人々が敵の侵入を防ぐために、居住域の周囲に深い堀や溝を巡らせた集落を建設しました。この防御的な構造を持つ集落を何と呼びますか。 (2024年 北海道公立入試 類似)

1. 環濠集落 2. 高床倉庫 3. 竪穴住居 4. 前方後円墳

問2 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的な背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山公立入試 類似)

1. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐり集落間の争いが激しくなったため 2. 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため 3. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため 4. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため

問3 弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐり争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。 (2024年 沖縄公立入試 類似)

1. 高床倉庫 2. 環濠集落 3. 石舞台古墳 4. 三内丸山遺跡

問4 古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)

1. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した 2. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた 3. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した 4. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した

問5 紀元1世紀ごろ、日本の小国の王が、中国の皇帝に対して貢ぎ物を送る「朝貢（ちょうこう）」を行い、金印を授けられた主な理由や背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 長崎公立入試 類似)

1. 中国の皇帝から王としての地位を認めもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。 2. 中国の進んだ仏教文化を日本に導入するために、僧侶を派遣する正式な許可を得るため。 3. 大陸で勢力を強めていた高句麗に対抗するため、中国と軍事同盟を結ぶ必要があったため。 4. 日本国内の統一を成し遂げたことを報告し、中国への輸出関税を免除してもらうため。

問6 福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 富山公立入試 類似)

1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため 2. 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため 3. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため 4. モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため

問7 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。 (2020年 徳島公立入試 類似)

1. 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた 2. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った 3. 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した 4. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた

問8 弥生時代に現れた環濠集落は、それ以前の縄文時代の集落とは大きく異なる社会背景を持っています。このような形態の集落が全国的に出現した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 愛知公立入試 類似)

1. 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐり集団間の争いが激化したため 2. 大陸との交易で得た貴重な青銅器や鉄器を、雨風や火災から物理的に保護する必要が生じたため 3. 大規模な洪水被害から住居を守るために、集落の周囲に巨大な排水路を設ける必要があったため 4. 渡来人から伝わった仏教の寺院を建立するにあたり、聖域と世俗の居住区を明確に区別するため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 環濠集落	集落の周りに堀（溝）を巡らせた環濠集落は、佐賀県の吉野ヶ里遺跡などに代表される弥生時代の特徴的な集落形態です。受傷人骨の増加という考古学的な事実とあわせて、当時の社会が常に争いの危険にさらされていたこと、そして集落が共同体として自衛機能を持っていたことを示しています。
問2	答え 1 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐ る集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稲耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問3	答え 2 環濠集落	弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐる集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。
問4	答え 1 土を深く耕すことを可能にして農業生産 力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問5	答え 1 中国の皇帝から王としての地位を認めて もらうことで、国内における支配の正当 性を高めるため。	当時の日本（倭）は多くの小国が分立しており、各地の有力者は自らの権威を強めるために、強大な権力を持つ中国の皇帝に使者を送りました。皇帝から「王」として認められ、その証として金印や銅鏡などの貴重な品を授かることは、周辺の他の勢力に対して自らの支配力の正当性を示す大きな強みとなりました。
問6	答え 1 中国の皇帝から地位を認められること で、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑 えようとしたため	当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとしていました。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。
問7	答え 1 一人の女性を王として共立し、国をまと めさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を收拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問8	答え 1 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれ た結果、土地や水をめぐる集団間の争い が激化したため	本格的な稲作の開始は、人々に安定した食料をもたらしましたが、同時に「富の蓄積」と「貧富の差」を生み出しました。これにより、条件の良い耕作地や農業用水を独占しようとする集団同士の対立（戦争）が始まりました。自分の集落を守るために防御機能を備える必要があったことが、環濠集落が普及した最大の背景です。